

マサキの実を食べるジョウビタキ



実のなる木を植えよう

私たちが、庭やベランダにエサ台や水場を置いたり巣箱をかけて冬の野鳥を呼ぶのは、冬の間のエサ不足を補い、繁殖期のスタミナを貯えさせ、彼らの種の保存につなげる意義あることです。そしてそこに野鳥の好きな実をつける樹木があれば、鳥たちにとってすてきな休息場所ができあがります。窓辺の鉢植えでもよいのです。

樹木は、森林性の野鳥には彼らのすみかをかたちづくる重要な部分、というより、生活のすべてを依存するところ。また、庭が、木がたくさん植えられているのに、野鳥の姿が少ないのは、ただ単に木の形がよいとか葉の色や花が楽しいといった外見だけで選ばれていたからで、そこに鳥たちがよこんで食べるような実をつける木を植えれば、野鳥を呼ぶことももっとらくにできるようになります。

木の種類を選ぶには、その地方で鳥が何を好んで食べるかを観察し、それを植えてやれば確実に、鳥の落ちた糞から芽を

出したものを育てれば、もっと確実です。実のなる木がわかったし名前もわかった。さてそれをどうして手に入れるかですが、園芸店などで売られているものはいとして、なかなか手に入れにくい木もあります。一般に、園芸的な価値を認められているものでなくても、実をたくさんつけて鳥たちによく利用されている木が少なくありません。だからといって山野にはえているのを根ごと持ってくるのもいけません。野鳥のためとはいえ、山を荒らしてよいか——ということです。

理想的には、木の実が熟すころの実を取ってきてすぐにまくか、苗床をつくってまくことです。秋に取ったものを春まで待たせてまいて



すると発芽率が悪くなります。堅いカラに包まれた実は、水につけてからまきます。もうひとつの方法は、春から夏にかけて芽がこれから動きだそうとするころ、または葉が伸びきって芽の形ができたころ、一枝だけ切ってさし木することです。はじめの方は経験者か園芸店におたずねください。ところで、実をたくさんつけさせるには、陽のよく当たる場所に植えること。高木は一般に実を結ぶまでに年数がかかるので、年数の少ない低木類と組み合わせるとよいでしょう。また、野外に自然のエサが乏しくなる冬期に実の熟す木を植えると、野鳥たちによこばれることになります。



砂あびをするスズメ

鳥たちの生命の樹、生命の水。

いのち

いのち

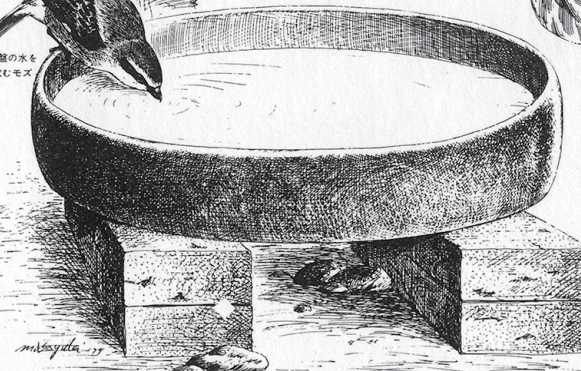
水をやろう

鳥たちにとって、水はもちろん飲むために大切なもので、美しい羽毛を保つために水浴びをする清潔好きの習慣にも欠かせない、文字通り生命の根源です。

東京サバク、などということばがあるように、とくに都会は野鳥にもサバクと同じ。ですから鳥が水を飲み、水浴びできるようにしてやればよこんでやることができます。たとえば庭としてのムードをこわさないためには、竹のかげいから水を流し、つぐばいに水をためるということが行われればよいのですが、水盤をひとつ置くだけでも、穴を掘ってビニールを敷くだけの簡単な池でも、鳥たちには十分な憩いの場となります。植木鉢用のプラスチック製の皿も利用できます。軽いのが欠点ですが、中によく洗った石を入れてから水を注げば深さも調節でき、もう立派な水場です。

水場のポイントは、メジロなどの小型からキジバトのような大型のものまで、いろいろな種類の鳥たちが使えるように深さに変化をつけること。むしろ浅めにするこ

が必要。このほか、水がにこらないようにたぎたぎの水



水盤の水を飲むメス

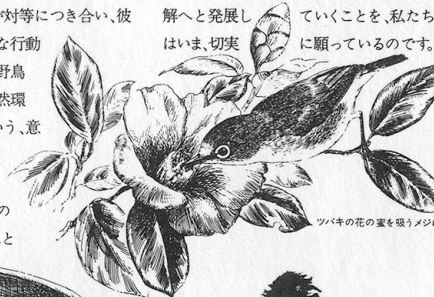


入れかえをやるのも大切。また、冬の間は水が張らないように気をつけてください。それから、スズメのように砂浴びをする鳥もいますから、砂場をつくってやるのもよいでしょう。さあ、あなたの庭に、窓辺に、ベランダに、すばらしい鳥の施設ができたということになります。

野鳥を呼ぶことの意義

野鳥を呼び、声を聞き、姿を見て楽しむ。それは、トリとヒトとが対等につき合い、彼らの自然界での自由な行動を見ることを通じて、野鳥が快適に暮らせる自然環境づくりを考えるという、意義のある第一歩です。いまほど地球的な視野から資源や環境の問題が叫ばれていること

はありません。これは、人間が「自然」を打ちのめし、あるいは奪い取るかたちで自然とつき合ってきたことへの反省の意味があるはずです。狩猟とかカゴで飼うとかハク製にするというような、自然界から野鳥を切り離すことを続けていたのでは、自然に対してさらに圧力を与える原因になります。実のなる樹木を植え、水場を置いて野鳥を呼ぶ——ちいさな、ひとつひとつの積みかさねが、自然保護や環境保全の正しい理解へと発展していくことを、私たちは、切実に願っているのです。



財団法人日本鳥類保護連盟
サントリー株式会社

●この広告は、財団法人日本鳥類保護連盟の指導を得て、サントリー株式会社がシリーズとして制作しています。

トリからのメッセージ 78

●自然の一員としてのヒトの義務——愛鳥キャンペーン
ヒト自身の生存と、生命への愛情をはぐくみ、次の世代へ引き継ぐための大きなテーマ：それが自然保護です。私たちが、この新聞広告や、全国各地のバード・サンクチュアリー（野鳥の森づくりの運動を通じて展開している「愛鳥キャンペーン」も、自然保護の精神から出発

しています。トリの生命を護ることがヒト自身を守ることであり、かけがえのない自然をこれ以上こわさずに護り育てようという社会環境づくりを自覚して、これからも自然保護に関するいろいろな問題に取り組んでまいります。ヒトの心にトリの保護区を……より良い自然環境づくり運動を、皆さまのご理解ご支援をお願いいたします。